

「高齢者の肝膿瘍で迅速なドレナージが奏功した一例」

瀬戸内徳洲会病院 2 年次研修医
西野 宏一

95 歳男性、数日來の全身倦怠感を主訴に来院した。CT にて肝右葉に膿瘍を認め、治療目的に入院となったが、入院後敗血症性ショックに陥り、緊急ドレナージを施行した。ドレナージ後、早期に全身状態の改善をみとめたため、考察とともに報告する。